

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2795000286		
法人名	株式会社 コミュニティハウス・夢		
事業所名	グループホームみんなの家・福ちゃん		
所在地	大阪府東大阪市六万寺町1丁目14-20		
自己評価作成日	平成 30年 6月 1日	評価結果市町村受理日	平成 30年 8月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2795000286-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 7月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの共通理念「人を人として尊び、共に学び、共に支え合う姿勢を持ち続けること」を掲げ、共に生きる姿勢を大切にしています。私たちにできることは何か？それは、地域住民の方々とネットワークを構築し、困った時に相談し、暮らしを支え合う関係をグループホームの運営を通じて行っていきたくと思っています。みんなの家・福ちゃんでは共に支え合い、最後までその人らしさを失わないように過ごしていただきたいとの思いで、笑いの絶えない賑やかなグループホームを創っていきます。福ちゃんが大切にしている事①一日一回は大笑いする事。②楽しみや喜びを共有する大きな家族になる事③プログラムのない自然な暮らし④一人一人の思い、やりたいこと、個人の生活リズムを尊重すること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みんなの家・福ちゃん」は法人代表者がいくつものグループホームの管理運営に携わった経験から、「みんなの家」という理想を実現することを目標として、6年前に設立した1ユニットのグループホームです。地域の要望を踏まえて、デイサービスセンター、宅老所、住宅型有料老人ホーム等を併設し、利用者の利便性を図っています。「みんなの家・福ちゃん」では利用者は規則等にしばられることなく、気ままに過ごせるのが日課になっています。利用者は美容やおしゃれを楽しみ、知人と教会等に出かけ、好きなお刺身等を食べて、近隣の子どもとビーチボールで遊ぶなど、一人ひとりが意向に沿った支援を受けています。清掃専門職員や調理専門職員を配置して十分な人手を確保し、美味しい食事、清潔な環境を整えながら、利用者が安心して過ごせるようにしています。24時間365日の医療体制を整えて看取り支援にも取り組んでいます。地域や行政と連携して、非常災害時の避難場所の見直しや備えを充実するよう取り組むなど、今後もさらにサービスの向上を目指しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>当事業所の理念である『人を人として尊び、共に学び共に支え合う姿勢を持ち続けること』と「共に生きる」という姿勢を大切に、その思いを全体会議等の機会を通じて共有することでより良い介護の実践に努めている。</p>	<p>理念には『人を人として尊び、共に学び、共に支え合う姿勢を持ち続けること』を掲げ、「共に生きる」ことを大切にしています。職員は理念をホーム内に掲示し全体会議等で共有しながら、利用者が「住み慣れたこの町で、自宅で過ごすように、いつものまま、元気に過ごせるように」と支援に取り組んでいます。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>散歩の折には、日常的に近所の方と挨拶を交わしている。地域のふれあい祭りや包括の催しに参加し、地域の方と交流している。秋祭りには太鼓台が立ち寄って下さるので、利用者がお茶を配ったりしている。また逆に施設の祭り等の催しにも大勢の方が来て下さっている。</p>	<p>自治会に加入し近隣住民の理解を得ながら、地域行事に参加し親交を深めています。秋祭りには太鼓台がホームに立ち寄り、利用者は職員と共にお茶を提供しながら祭りを楽しんでいます。毎年開催するホーム祭りでは、利用者が近隣にお知らせのチラシを配っています。当日、ホーム周辺は大勢の近隣住民で賑わい、模擬店は恒例行事として親しまれ繁盛しています。近隣の子どもたちが遊びに来て、利用者とビーチボールを楽しむなど、世代間の交流も生まれています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議や広報誌等で認知症ケアの話題を発信している。また地域包括の関係者との交流の中で支援方法を学んでいる。昨年度からは代表が高齢者支援等会議のメンバーとして市の高齢者の課題に取り組んでいる。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では取り組みやサービス状況の報告や課題の解決に向けての話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に役立てている。今年度からは身体的拘束等適正化委員会もこの中で開催している。</p>	<p>運営推進会議は要綱に沿って、2か月に1回、年6回の定期開催をしています。2018年度からは身体的拘束等適正化委員会を合わせて開催しています。メンバー構成は利用者・家族、地域包括支援センター職員、老人センターCSW(コミュニティソーシャルワーカー)、グループホーム職員等です。会議ではホームから利用者の様子や行事等について報告し、地域情報の交換や意見交換をしています。会議で出された提案や要望等については職員間で共有し、ホーム運営に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>事業者連絡会には必ず出席し、十分な連携を図り、協力関係を築き、相談を行っている。また、月一回 市の介護相談員に来ていただき、実情や取り組みについて報告している。</p>	<p>市が主催する会議等には必ず参加し、市と連携して協力関係を築いています。災害対策や避難所利用等についても市と相談しながら進めています。書類提出等で市に出向いた際には、できるだけ情報交換をするよう努めています。月に1回、定期的に市の介護相談員の訪問を受けて、利用者の話を聞いてもらうと共に、ホームの実情を伝える機会にしています。事業者連絡会には積極的に参画して、役員としても力を発揮しています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員には全体会議で勉強会を年二回実施する他、折ある毎に現場で意識づけを行っている。また、玄関は施錠せず、個々の利用者の様子に気を配り、外を気にされる様子を察知した時は、さりげなく声かけを行い、一緒に外に出るようにしている。</p>	<p>運営規程に「身体拘束等の禁止」を明記し、年に2回勉強会を開催して、身体拘束を行わない支援に取り組んでいます。2018年度からは法改定に沿って「身体的拘束等適正化委員会」を開催し、法的根拠等を学びながら必要な事例があれば検討しています。日中、玄関は開錠して自由に出入りできるようにしていますが、利用者が外出の意向を示した場合には職員が付き添い支援をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全体会議等で虐待防止の徹底を図り、施設内外の研修にも積極的に参加し、意識の向上の機会を持つようになっている。日々のケアの中でも職員間の話し合いを行い虐待行為の防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設内外の研修で権利擁護や成年後見制度について理解を深める努力をしている。現在は2名の方が日常生活自立支援事業を活用されている。今後も必要に応じて活用できるように連携を図っていく。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>不明な点が残らないように、契約時に重要事項説明書及び契約書の内容について十分に説明、話し合いを行い、ご理解・納得の上で契約していただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で個々の利用者の思いを汲み取り対応できるように努めている。玄関に意見箱を設置し、書面にて苦情や相談を受け付けている事を明記している。また、面会時にも意見を伺うように努めている</p>	<p>家族の訪問時には職員から声をかけて意見や要望を聞くようにしています。月に1回、ホーム行事や利用者の状況を写真入りで分かりやすく記載した「福ちゃん新聞」を発行し、家族に送付しています。ホーム内に意見箱を設置して家族等が意見を出しやすくなるよう、記入用紙も準備しています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の全体会議では率直な意見を交換できる機会を設け、反映できるように努めている。現在使用しているオムツの選択や午前中に実施しているラジオ体操等は職員の意見を取り入れたものである。</p>	<p>管理者や代表者は日常的に職員の意見を聞き、ホーム運営に活かしています。月に1回の全体会議には全員が参加できるように調整し、職員一人ひとりが発言できるようにしています。職員からの提案事項については全員で話し合い、業務改善に活かしています。</p>	<p>管理者や代表者は職員一人ひとりのスキルを高めながら、利用者へのかかわり方・心構えについて、職員間で統一できるように取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>1ユニット9名であるが、日中は4人体制でゆとりを持って仕事しやすい環境を整えている。給与面では資格手当、能力に応じた算定を行い働きやすい環境作りに努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々に合った研修の機会を確保し、費用は会社が負担している。外部研修を受講した職員は伝達研修を行い、他の職員にも知識を広げている。また、全体会議等での指導や日々のケアの現場で折々に指導・助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の事業者部会や全国セミナー等を通じ、他事業所との交流の機会を設け、ネットワークづくりや勉強会を行い、サービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に施設見学をしていただき、事前相談や契約の段階で本人の思い、不安、要望等を伺った上で、安心していただけるサービスを提供することで信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プライバシーに配慮しながら、家族の思いをよく聞かせていただき、要望を反映し、不安を解消できるサービスを提供することでより良い関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他機関や介護支援専門員の方々との連絡・調整を図りながら本人、家族のニーズに合った対応を心がけている。また、初期のサービスにおいて本人が早く馴染み、納得されるよう職員間で連携をとり、支援の工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに支援する・されるの関係ではなく、共に生きる姿勢を持ちながら、日々の暮らしを続けていけるような関係を築くように努めている。また利用者間で話し合いながら自主的に家事をこなして下さる雰囲気もできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事も職員の判断だけでなく、日常の些細な事も家族に伝え、同じ思いを常に持ち、家族との絆を深め、共に支え合っている者同士としてより良い関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>いままでの生活や家族関係に配慮し、面会・外出・外泊等気軽にできるように支援している。面会は昼夜を問わず可能であることを伝え、都合の良い時に自由に来ていただいている。また、施設行事を文書でお知らせし、参加していただいている。</p>	<p>利用者は馴染みの美容院、スーパー、喫茶店等に出かけて、これまでの関係を継続しています。家族等の協力を得て教会に出かけたり、外泊したり、墓参り等に出かける利用者もいます。職員は希望があれば利用者が友人や知人に電話をかけたり、手紙を出したりする際の支援をしています。携帯電話を持参する場合には充電等の支援を行い、利用者がいつでも活用できるように配慮しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々の性格や感情の変化を理解し、生活の中でより良い関係を築いていけるように努めている。関わりを持つことが苦手な方には、職員が間に入ることにより、孤立を防ぎ利用者同士関わりを持てるように努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約を終了された方々の家族にも継続して会報誌を送っている。また、地域推進会議の参加をお願いし、近況を報告し合っている。貴重な意見を伺えることもあり、今後も関係が続くように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・言葉・表情等を記録に残し、また生活歴やアセスメントも参考に、その方の思いや意向を把握できるように努めている。困難な場合は家族や職員間で話し合い、検討している。	職員は利用者一人ひとりの生活歴を考慮し、その日の意向を確認しながら日常支援をしています。言葉で表現できない場合には表情やしぐさから意向を確認しています。必要な場合には家族と相談しながら利用者本位に支援をしています。利用者は美容やおしゃれを楽しみ、知人と教会等に出かけ、好きなお刺身を食べて喜び、近隣の子どもとビーチボールで遊ぶなど、一人ひとりが意向に沿った支援を受けています。職員は利用者が日常生活を楽しく過ごせるよう、意向に沿った支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に可能な限り、本人・家族・関係者より情報収集を行っている。また、日々の生活や会話の中からさりげなく聞き取り、情報の補足ができるように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握した情報をもとに施設で生活を始められて後の生活状況・心身状況・残存能力等について本人に聞き取りを行う一方で、全体会議の場等において職員間で情報を共有して現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>施設でのより良い生活のために、本人には日々の生活の中で、家族には来訪時や電話で話を伺う。必要に応じて医師や看護師にも意見を聞き、サービス担当者会議で職員間の意見を検討して介護計画書を作成している。</p>	<p>介護計画書作成時には本人と家族の意向や希望を重視しています。利用者・家族の意向に沿った支援を進めるために、サービス担当者会議を開催し、居室担当者を中心に職員間で話し合っています。必要時には医師・看護師とも相談しながら支援内容を決めています。介護計画書は6か月毎に見直しを行い、アセスメント、モニタリング記録を残しています。毎日の申送り時や毎月の全体会議で支援内容を検討し、必要に応じて随時見直しをしています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入所時には初期観察記録をつけ、申し送りや連絡ノートを活用し、個々の情報を共有している。気づきや工夫等を個別記録に残し、職員の誰もが状態把握できるようにし、会議等で検討し実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時々ニーズに合わせた対応をしている。希望者には外食や買い物に同行。家族の宿泊や食事にも柔軟に対応している。看取りの際は、最後の夜を居室で過ごされ、職員と一緒に看取っていただいた事もある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の催事にはお世話になっている関係者や地域の方々等も参加。地域の秋祭りには太鼓台が施設に立ち寄る等の交流もできている。包括や老人センター主催の手芸教室や他事業所の催事にも職員同伴で参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の病院の受診も可能であるが、定期往診と 24 時間医療連携体制をとっている協力医療機関があり、病気の早期発見、対応に努めている。他の医療機関には担当医から紹介状にて情報提供され、家族、または職員が同行し受診を支援している。	本人、家族が希望する主治医を選ぶことができますが、現在は利用者全員がホームの往診医を主治医としています。主治医は毎週1回往診し、ホーム看護師と連携を取りながら利用者の健康管理を行い、必要な指示を出しています。夜間や急変時にも、看護師を通じて主治医と連絡が取れるように、24時間オンコール体制を整備しています。訪問歯科を利用する場合がありますが、希望する歯科への受診支援も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師が週2回出勤し、体調管理を行っており、日々の状態報告や気付きを伝え、指示を受けている。その他急ぎの相談や指示を仰ぐ場合は 24 時間連携の訪問看護師に連絡し、適切な受診や処置が受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必要な情報提供を行い、入院中は病院関係者と情報交換や相談・経過確認を行っている。退院時は病院関係者から情報提供を受け、今後のケアに生かすように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を考慮し「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成。支援方法共有のため担当医・家族・職員で看取りケア会議を行い、交換ノートにて情報を共有している。施設でのケアの範囲を確認し、家族同意のもとでチームケアを行っている。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、入居時には利用者・家族に説明して同意を得ています。利用者・家族の希望があればホームでの看取りも実施しています。2017年度は2人の看取りを行いました。看取り介護に向けて、主治医、家族、職員全員で話し合い「看取り介護計画」を作成しています。看取りが終了した後「デスカンファレンス」を実施して、看取り介護から学んだことや今後生かすことなどを職員全員で話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修や訓練を行い、実践力を身に付けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>1つは消防署指導で、近隣住民も参加し、火災発生時の対応・通報の仕方・避難訓練の実施。他方は防災設備会社による消火訓練・設備点検の実施の年2回の防災訓練を行っている。防災グッズや非常食は地下に常備している。実際に昨秋、夜間に台風による避難勧告を受け、施設全体で避難を行ったが、課題も見付き、今後に役立つ話し合いの場が持てた。</p>	<p>「災害対応マニュアル」を整備しています。2017年、秋の台風時には避難勧告を受けて地域の避難所に利用者と共に避難しましたが、受け入れ態勢が充分ではなく、利用者の避難にも時間がかかることから、今後は状況に応じて、法人敷地内の併設施設2階を避難場所として使用することにしています。火災等に備えての避難誘導訓練は年に2回実施しています。そのうち1回は夜間を想定した訓練として、11月に実施する予定にしています。災害時備蓄として、水や食料、生活用品等を施設内に分割して保管しています。</p>	<p>ホームでは状況に応じて、併設施設の2階部分を避難場所として使用する予定にしています。今後は避難場所としての整備を行い、周知徹底するよう取り組む予定です。災害時避難誘導手順の確認、食料や生活用品等の備蓄充実、災害対応マニュアルの見直し等、取り組みの成果が期待されます。</p>
<p>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>援助が必要な時も本人の気持ちを尊重しさりげなく介助をするように配慮し、自己決定しやすい問いかけを心がけている。そのため、全体会議では個々の事例を検討し、誇りやプライバシーを尊重した対応を、具体的に確認している。</p>	<p>職員はゆっくりと利用者のペースに合わせた支援をしています。管理者や代表者は何よりも利用者への言葉かけを大切にしています。理念である「人を人として尊ぶ」という姿勢を日々の支援で実践すること、自分が望むような言葉かけを行うこと、そのためにどのような関わりが望ましいか、利用者一人ひとりについて全体会議で話し合い、支援に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に意思疎通が困難な方でも思いや希望が表出できるような声かけ、働きかけを行い、表情等で思いを感じ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	プログラムは用意せず、職員が利用者の気持ちや希望を把握し、個々のペースで一日を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選べる方にはある程度候補を選んで提示した中から自分で選んでいただいている。ヘアカット時は髪形や長さ等を美容師が尋ね、本人の希望に添えるように支援している。また、月2回専門家による美顔マッサージとメイクを受けられる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>誕生日や祝い事の時は個々に好物を聞きメニューに加えている。鍋、お好み焼き等を皆で作る機会を作り、他にも調理・盛り付け・後片付けを職員と共に行い、職員も一緒に食卓を囲んで食事をしている。表のプランタではイチゴやネギを栽培し、収穫している。</p>	<p>調理専門の職員を配置しています。献立は冷蔵庫にあるものを見て、利用者と相談しながらそのつど決めていきます。食材は週に1回必要なものを生協に注文し、足りないものは利用者と一緒に買い物に出かけています。利用者は野菜を洗う、味見や盛り付けをする、配膳や後片付けをするなど、それぞれができることで力を発揮しています。職員も一緒に食べながら食材や季節の話をして、介助が必要な利用者にはさりげなく会話をしながら寄り添い、支援をしています。おやつも手作りが多く、希望があれば回転ずしや喫茶店などにも出かけています。外出行事の際にはレストラン等での食事を楽しんでいます。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスを考え献立を作成し、個々の食事量を把握している。水分はこまめに提供し、必要に応じて刻み食、ミキサー食、トロミ粉を使用し、一人ひとりの状態に対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>ご自分でできない方には職員が支援している。その他の方には声かけや個々の能力に応じて口腔ケアの支援を行っているが、毎食後はできていない方もおられる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>できる限りトイレで排泄できるように個々の排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行い、能力に応じて見守りや介助を行っている。タイミングが合わない事もあるが、日中はほとんどの利用者がトイレで排泄できている。</p>	<p>職員は排泄表を記載し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して支援に活かしています。尿意を表現できない場合でも、時間をみて誘導するなど、利用者のプライバシーに配慮した支援をしています。日中はほとんどの利用者にトイレでの排泄を支援していますが、夜間はポータブルトイレやオムツを活用して、利用者の安全に配慮しています。職員は献立に野菜や果物、ヨーグルト等を取り入れ、散歩や運動に取り組むことで、利用者が気持ち良く排便できるように支援しています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎朝、献立にヨーグルトや果物を取り入れている。食事は野菜中心に1日30品目を目標にしている。便秘症の方には牛乳や水分摂取を強化している。また、運動を取り入れたり、腹部マッサージを実施している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴が好きな方には毎日入れるように、また、希望の時間帯に入浴していただけるように務めている。個々に好みのシャンプーやコンディショナーを用意している。</p>	<p>ホームでは利用者が2日に1回は入浴できるように準備をして声かけをしています。利用者は体調や気分に合わせて入浴していますが、概ね週1回～3回の入浴状況になっています。職員は入浴を好まない利用者には無理に勧めず、時間や日を変えて誘うなど、利用者の気持ちに沿った支援をしています。浴室の設備を充実し、利用者が重度化した場合にも安全に浴槽に入ることができるよう工夫しています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中は個々の居室やソファ、またはクライニングチェアで自由に過ごしていただいている。夜間は室温や寝具の状態、入眠状況の確認を行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員は服薬内容についてほぼ理解しており、病状の変化を確認し、各々に適切な服薬支援を行っている。特に便秘薬は排便状況を把握し、医師の指示のもと、調整をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、掃除や洗濯物干しやたたみ、食器拭き、食事準備等の役割を担っていただいている。散歩、外気浴、買い物、外食等で気分転換をしていただいている。またリビングで一緒にゲームに興じたりして交流している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や近隣の散歩で地域の方と話をする機会を持つようにしている。また、買い物で好きな物を選んで購入できるように支援している。概ね月1回の外食、年1回の美術館での絵画鑑賞の他、大衆演劇を楽しんだこともある。個別で希望されるところへも出かけられるように支援している。	ホームでは毎日のように玄関を出て外気浴や日光浴をしながら、隣接するデイサービス利用者と挨拶を交わすなどしています。時には周辺地域を散歩して気分転換をしたり、車でスーパーや喫茶店に出かけたりしています。近隣の子どもたちや犬の散歩をしている人とも挨拶を交わして馴染みの関係を楽しんでいます。年間を通じてはお花見やお食事会、他市の美術館鑑賞、ホテルでの観劇など、全員が参加できる企画をして遠出を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	中には少額の現金を手元に持っているだけ、お小遣い帳つけている方もあるが、基本的には職員が家族から預かり金銭管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望される時は職員が取り次ぎ、電話をかけていただいている。手紙を書いて出される時は投函できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	金魚の水槽、花を飾る、自然の風を取り込む等、季節を感じる工夫をしている。リビングは天窓からの採光で明るく、床暖房完備、施設内清潔保持を心がけている。トイレ、浴室もエアコンを導入し、温度差解消に努め、快適に過ごせるように工夫している。	玄関ホールには意見箱と用紙を置いて活用しやすくしています。リビングに続く扉をあけると、鳴り物が来客や外出を知らせてくれます。明るいリビングにはテレビやソファを配置して利用者がくつろげるようにしています。ダイニング周辺にはホームで育てた観葉植物（お芋の葉）、水槽にはまるまる太った金魚が泳ぎまわって利用者を楽しませています。浴室には介護用リフトを設置し、廊下等の手すりは高さを低く調整するなど、利用者の安全に配慮しています。ホームには清掃専門の職員を配置しており、新築のような清潔感が保たれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやリクライニングチェアを置き、その方の一番落ち着く場所、居心地のいい場所で自由に過ごしていただけるように務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、本人が自宅で使用していた家具等を持って来ていただいたり、住み慣れた部屋の雰囲気に近い家具の配置等を工夫している。また和室と洋間があり、たたみで生活されていた方にはできるだけ和室で過ごせるよう努めている。	居室は洋室、和室があり、利用者の生活スタイルを考慮して希望に沿えるようにしています。各部屋にはエアコン、ベッド、のれんが備えつけられています。利用者はそれぞれ使い慣れた家具を持ち込み、写真やぬいぐるみ等を配置して居心地よく過ごせるようにしています。居室担当職員は、利用者、家族と相談しながら季節毎にタンスの衣類を入れ替え、一緒に掃除をするなど細やかな支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできることを把握し、その方に応じて行動を見守り、安全に過ごせるよう工夫している。		